

高等学校運動部顧問教師の部活動指導意識 タイプ別にみた生活と意識の特性 — 部活動指導意識と関連する要因の分析から —

西 垣 完 彦

は じ め に

一般に中・高等学校における運動部活動（以下「部活動」という。）は、指導者の情熱と犠牲に大きく依存しているといわれている。

指導者の中心である顧問教師のなかには、部活動指導に生きがいや楽しみを見出し、私生活ばかりでなく家庭（家族との）生活をも犠牲にし、教師として学校で費やすエネルギーの大半を部活動指導に傾注して夜遅くまで部員の先頭に立ち、率先して技術指導を行っている教師もいれば、顧問とは名のみで部活動指導をほとんどしない名目的顧問教師も存在するなど、顧問教師の部活動へのかかわり方は多様である。

このことは、現在の中・高等学校における運動部顧問教師には部活動指導に対する意識（以下「指導意識」という。）の点からみてもさまざまなタイプの教師が存在していることを示唆している。

本稿では、指導意識から顧問教師をいくつかのタイプに分類し、指導意識と関連する要因の具体的内容の分析から顧問教師の生活と意識を類型化し、その特性をタイプ別に明らかにする。

研 究 の 方 法

研究方法は郵送質問紙法調査によったが、調査の概要は次のようである。

1. 調査対象

愛知、岐阜、三重、静岡4県所在の国公立私立高校のうち、453校の硬式野球、剣道、バレーボール、陸上競技の4運動部の顧問教師（教諭）全員を対象とした。

配布した調査票2833部（A）、回収有効調査票1245部（B）、転居先不明、該当住所に見

当らず等による未回収調査票24部（C）、回収無効調査票10部（D）で、回収率44.5%〔 B / (A - C - D) × 100 〕であった。

2. 調査時期

1981年 3 月

3. 調査対象者（標本）の性格

有効調査票のうち、本稿で用いた調査票（標本）は1189部であり、その性格は表 1 に示すとおりである。

表 1 標本の性格 注 1)

項目, カテゴリー				% (実数)
年 齢	20 歳 代			23.9 (284)
	30 歳 代			38.9 (463)
	40 歳 代			24.3 (289)
	50 歳 以 上			12.6 (150)
結 婚 注2)	未 婚			17.2 (205)
	既 婚			82.2 (977)
担 教 当 科	保 健 体 育 外			36.2 (431)
	保 体 以 上			63.4 (754)
顧 問 運 動 部	硬 式 野 球			25.6 (304)
	剣 道			21.4 (254)
	バレーボール			30.6 (364)
	陸 上 競 技			22.5 (267)
学 校 所 在 地	岐 阜			15.0 (178)
	愛 知			39.8 (473)
	三 重			17.4 (207)
	静 岡			27.8 (331)
計				100.0(1189)

注 1) DK,NAを除くので100.0(%),
1189(実数)にならないものがある。

注 2) 離死別除く。

分 析 の 方 法

指導意識による顧問教師の分類を、表 2 にみるように、「先生が顧問運動部の指導をされている時のお気持は、次のどれにもっとも近いですか」という設問に対する反応から行い、顧問教師を、「生きがい型」、「楽しみ型」、「義務型」、「校務型」の 4 タイプに分類した。

次に、本調査で用いた調査項目が広範多岐にわたっているため、調査項目の選定を行い、本稿ではそのなかから82項目を採用した。そして、これらの項目と指導意識との関連性の有無をカイ自乗検定（以下「X²検定」という。）で行い、さらに関連の強弱をクラマー係数（Cramer's V）で求めた。

$$V = \sqrt{\frac{\phi}{\min\{(r-1), (c-1)\}}} \quad \text{ただし } \phi = \sqrt{\frac{X^2}{N}}$$

なお、統計的処理は名古屋大学大型計算機センターを利用して行った。

表2 部活動指導意識 タイプの分類

タイプ	質 問 内 容	%
	質問：「先生が顧問運動部の指導をされている 時のお気持ちは、つぎのどれにもっとも 近いですか。」	
<hr/>		
<生きがい型>1. 生きがいをとても感じて指導している。	29.3
<楽しみ型>2. 生きがいはそれほど感じないが、楽し く指導している。	38.7
<義務型>3. 生きがいも楽しみもそれほど感じないが 顧問の義務だと思って指導している。	22.4
<校務型>4. あまり気がすすまないが、校務なので 仕方なく指導している。	5.1
	その他.....	3.9
		NA,DK..... 0.6
		<hr/>
	計	100.0(1245)

結果と考察

指導意識と82項目との関連性の X^2 検定及びクramer係数の結果は表3にみるとおりである。

以下、主に指導意識と関連する要因のうち関連度の強い項目を中心に、顧問教師の態度・意識や生活の諸特性をタイプ別に概観するが、紙幅の関係上主に生きがいの型教師と校務型教師を中心にとりあげることにする。

表3 部活動指導意識と他の項目との関連一覧表 (※P<0.05・※※※P<0.01)

項目		X*検定・√F			X* 検 定			P	グラマー係数	表番号
		d f	X* 値	√F	X*	値	P			
基礎項目	年 齢	9	9.891		n s		0.052	4		
	性 別	3	5.792		n s		0.069	5		
	結 婚	3	2.575		n s		0.046	6		
	担当教科	3	117.618		※	※	0.315	7		
	運動部	9	10.693		n s		0.054			
	学校所在地	9	18.565		※		0.072			
教師の能力・資質	スポーツの愛好	6	348.176		※	※	0.382	12		
	顧問運動部のスポーツの愛好	6	442.459		※	※	0.431	13		
	顧問運動部のスポーツの経験	3	89.278		※	※	0.274			
	学校運動部の加入経験	3	112.214		※	※	0.307	14		
	学校段階別運動部加入経験	6	78.819		※	※	0.203			
	学校運動部での活動状況	6	104.457		※	※	0.230			
	対外試合参加経験	6	145.409		※	※	0.247			
	対外試合の競技レベル	9	173.074		※	※	0.220	15		
	指導能力の自信	12	415.022		※	※	0.341	16		
顧問運動部の特性	部活動の活動レベル	9	181.133		※	※	0.225	8		
	活動の競技レベル	12	119.627		※	※	0.183	9		
	伝統	6	39.410		※	※	0.128			
	後援会	3	49.385		※	※	0.203			
	部員の活動目標	6	109.755		※	※	0.216	10		
部員としての関心・活動力・向上心・自己啓発・対人関係	学校長	9	50.285		※	※	0.118			
	同僚の教師	9	54.501		※	※	0.123			
	生徒一般	9	26.398		※	※	0.086			
	PTA	9	42.599		※	※	0.109			
	部員の父兄	9	103.854		※	※	0.170			
	地域の人びと	9	55.006		※	※	0.124			
	スポーツ団体関係者	9	42.942		※	※	0.109			

項目	X ² 検定・√CF	X ² 検 定			クラマー係数	表番号
		d f	X ² 値	P		
部活動指導に 対する自己 認識の向上 に対する価値	学 校 長	9	235.259	※※※※	0.257	11-①
	同僚の教師	9	262.813	※※※※	0.272	11-②
	一般の生徒	9	241.285	※※※※	0.260	11-③
	P T A	9	164.971	※※※※	0.215	11-④
	部員の父兄	9	261.565	※※※※	0.271	11-⑤
	地域の人びと	9	162.823	※※※※	0.214	11-⑥
	スポーツ団体関係者	9	234.979	※※※※	0.257	11-⑦
部活動指導に 対する価値 の向上 に対する価値	教師と生徒の人間関係の向上	6	185.114	※※※※	0.279	17-①
	学校生活を楽しむ	6	42.688	※※※※	0.134	
	健康の増進	6	84.995	※※※※	0.189	
	民主的態度の育成	6	159.601	※※※※	0.259	17-②
	愛校心・連帯感の向上	6	150.267	※※※※	0.251	17-③
	集団生活の学習	6	172.913	※※※※	0.270	17-④
	非行化防止	6	106.658	※※※※	0.211	17-⑤
部活動指導に 対する意識 の向上 に対する価値	運動欲求の充足	6	65.305	※※※※	0.165	
	ハリと生きがい	12	848.555	※※※※	0.489	18-①
	趣味の1つ	12	569.066	※※※※	0.400	18-②
	奉仕活動	12	84.460	※※※※	0.154	18-③
	当然の義務	12	197.665	※※※※	0.236	18-④
	力量発揮の場	12	404.262	※※※※	0.337	18-⑤
	負担の大きい仕事	12	226.474	※※※※	0.252	18-⑥
その他	強い選手・チームの育成	12	384.195	※※※※	0.329	18-⑦
	社会的信用・名声の獲得	9	97.172	※※※※	0.165	
	部活動振興の方法	9	169.178	※※※※	0.218	19
	人間形成と部活動	9	138.869	※※※※	0.198	20
	学校の方針	9	40.025	※※※※	0.106	
	部員満足度	6	36.602	※※※※	0.124	
	競技成績満足度	6	42.928	※※※※	0.134	
指導行動	家族(配偶者)の理解	12	103.872	※※※※	0.187	
	体育・スポーツ団体関与	3	98.890	※※※※	0.288	
	資格の所有	3	104.761	※※※※	0.297	
	技術的指導	6	407.382	※※※※	0.414	21
	放課後の部活動指導	9	332.269	※※※※	0.307	22
	部活動指導時間(春夏期平日)	9	63.511	※※※※	0.142	23
	〃 (春夏期土曜)	12	59.068	※※※※	0.137	24
生活行動	早朝練習の指導	6	76.072	※※※※	0.235	
	休日の部活動の指導・指導日数	9	184.366	※※※※	0.228	25
	顧問のタイプ(技術指導からみた)	15	314.187	※※※※	0.296	26
	部活動の計画立案者	15	232.954	※※※※	0.256	27
	退勤時刻(春夏期)	12	177.365	※※※※	0.223	28
	〃 (秋冬期)	12	181.381	※※※※	0.225	
	放課後の仕事(1位)	9	243.448	※※※※	0.261	29
生活意識	エネルギー配分(部活)	9	276.799	※※※※	0.278	30
	〃 (部活か教科か)	6	145.159	※※※※	0.247	31
	部活動指導のための自己研修	9	387.801	※※※※	0.330	33
	家庭生活への影響	9	95.833	※※※※	0.164	32
	家族との関わりへの影響	9	85.075	※※※※	0.155	
	教材研修への影響	9	15.952	※※※※	0.067	
	自由時間への影響	9	50.846	※※※※	0.120	
生活意識	趣味活動への影響	9	32.585	※※※※	0.096	
	研修会参加意欲	6	317.175	※※※※	0.366	
	教師生活のやりがい(部活と教科指導)	9	360.963	※※※※	0.318	34
	生活満足度	6	19.356	※※※※	0.090	
生活意識	教師生活満足度	9	88.928	※※※※	0.158	35
	生きがい	9	75.610	※※※※	0.145	

1. 基礎的項目

表4～7は、指導意識と年齢、性、結婚、担当教科目などの基礎的項目との関連をみたものである。指導意識と関連する項目は担当教科目のみで他の年齢、性、結婚などとは有意な関連がみられない。つまり、保健体育担当教師（以下「体育教師」という。）と保健体育以外の教科担当者（以下「他教科教師」という。）が各タイプに占める比率は、体育教師の場合、生きがい型＞楽しみ型＞義務型＞校務型（不等号は「2つの比率の差の検定」により5%水準で有意差のあることを示す。以下同じ。）の順になっているのに対し、他教科教師の場合は全く逆の傾向を示している。生きがい型には体育教師が、楽しみ型、義務型、校務型には他教科教師が多いが、これは体育教師の職業的社会的化の一つに運動部活動経験が大きな役割を果たしているためと思われる。また、一般に、既婚より未婚の、年配より若年の、女性より男性の顧問教師の方が部活動指導に情熱を傾注し、指導に生きがいを感じているのではないかとわれているが、指導意識からみる限りこの（仮）説を立証するだけのデータは得られなかった。

		表 4 年齢 注)				表 5 性		表 6 結婚 注)		表 7 担当教科	
タイプ	N	カテゴリー				男	女	未 婚	既 婚	保健 体育	保体 以外
		20 代	30 代	40 代	50 以 上						
生きがい型	365	25.5 	40.3 	21.4 	12.6 	94.5 	5.2 	16.7 	82.2 	56.2 ∨	43.6 ∧
楽しみ型	482	24.7 	40.0 	23.4 ∧	11.6 	96.3 	3.7 ∧	19.1 	80.3 	34.4 ∨	65.6 ∧
義務型	279	19.7 	37.3 	29.0 	13.6 	92.5 	7.5 	14.7 	85.3 	19.7 ∨	79.2 ∧
校務型	63	27.0	30.2	27.0	15.9	96.8	3.2	17.5	82.5	7.9	92.1
計	1189	23.9	38.9	24.3	12.6	94.9	5.0	17.2	82.2	36.2	63.4

注) ①NA,DKを除くので、100.0%にならない。以下同じ。 注) 離死別除く

②統計的处理は、全てNA,DKを除く。以下同じ。

③表中の不等号は「2つの比率の差の検定」により5%水準で有意差のあることを示す。

2. 顧問運動部の特性

近年、高校運動部は、テレビや新聞などのマスメディアを媒体として、甲子園の高校野球にみられるような地域ぐるみの熱狂振りや全国高校総合体育大会の肥大化に象徴されるように過熱化の様相を呈している。そして、勝利至上主義的社会風潮を背景に連日遅くまで猛練習を行っている運動部が多いが、このような状況は顧問教師の指導意識や指導行動にも大きな影響を与えているように思われる。

表8-10は、指導意識と顧問運動部の特性との関連を、活動レベル、競技レベル及び部員の活動目標からみたものである。部活動がかなり活発な部は、生きがい型>楽しみ型>義務型=校務型、部の競技レベルを県レベルでみた場合中上以上の部は、生きがい型>楽しみ型=義務型>校務型、部員の目標が勝利志向の多い部は、生きがい型>楽しみ型=義務型>校務型の順になっている。生きがい型教師の運動部は活動が活発で競技レベルも高く、部員の活動目標は勝利志向がきわめて強い。これに対して、校務型教師の運動部は、活動レベル・競技レベルともそれ程高くないし、部員も他のタイプと比較して楽しみ志向のものが多い。

顧問運動部の活動・競技レベルや部員の活動目標は、顧問教師の指導意識を規定する要因としてかなり大きなウェイトを持っているとみてよい。

表8 部活動の活動レベル 表9 部活動の競技レベル 表10 部員の活動目標

カテゴリー タイプ		N	表8 部活動の活動レベル				表9 部活動の競技レベル				表10 部員の活動目標		
			かなり 活発	まあ 活発な方	どちら ともい えない	「少し」 「かなり」 「不活発」	上	中 上	中	中 下	下	勝利 絶対	勝利 志向
生きがい型	365	53.4 ▽▽△	37.8 △	4.1 △	4.7 △	21.9 ▽▽▽	29.0 △	25.5 △	16.7 △	6.8 △	61.6 ▽▽△	30.1 △	6.3 △
楽しみ型	482	22.6 ▽▽△	49.4 △	14.1 △	13.9 △	6.0 △	19.7 △	33.0 △	25.3 △	15.6 △	36.9 ▽▽△	42.3 △	19.9 △
義務型	279	17.2 △	43.7 △	16.1 △	22.9 △	5.4 △	18.3 △	30.5 △	25.8 △	20.1 △	33.3 ▽▽△	41.9 △	23.3 △
校務型	63	17.5 △	33.3 △	15.9 △	33.3 △	6.3 △	9.5 △	23.8 △	34.9 △	25.4 △	25.4 △	31.7 △	42.9 △
計	1189	30.5	43.7	11.6	14.2	10.8	21.7	29.6	23.3	14.5	43.1	37.9	17.7

3. 部活動指導に対する他者の評価の自己認知

表3にみるように、部活動の活発化や競技力向上に対する他者の期待・関心と指導意識とは有意な関連を持っているが、関連の度合($\sqrt{C_r}$)は「部員の父兄」を除いて余り強いとはいえない。これに対して、部活動の指導に対する他者の評価の自己認知は指導意識とかなり高い関連を持っている。

表11-①～⑦にみるように、自分の部活動指導の価値を他者が高く評価していると自己認知している顧問教師の割合は、他者によって違いはあるものの、おおむね、生きがい型＞楽しみ型＞義務型＞校務型の順になっている。学校長、同僚の教師、一般の生徒、PTA、部員の父兄、地域の人びと、スポーツ団体関係者などの部活動指導に対する好意的評価は、顧問教師の指導意識を規定する要因と考えてよい。顧問教師としての存在価値が他者によって承認されているという自己認知は、教師の部活動指導に対する情熱に一層の拍車を掛ける原動力の一つとしても機能しているように思われる。

表11 部活動指導に対する他者の評価の自己認知

項目 カテゴリー タイプ	N	① 学 校 長				② 同僚の教師				③ 一般の生徒				④ P T A			
		十分 認めて いる	少し は認めて いる	どちら ともい えない	「わ からな い」「 あま り」 「全 く」	十分 認めて いる	少し は認めて いる	どちら ともい えない	「わ からな い」「 あま り」 「全 く」	十分 認めて いる	少し は認めて いる	どちら ともい えない	「わ からな い」「 あま り」 「全 く」	十分 認めて いる	少し は認めて いる	どちら ともい えない	「わ からな い」「 あま り」 「全 く」
生きがい型	365	42.2 ▽▽△	38.4 △	14.0 △	4.7 △	42.5 ▽▽△	41.1 △	13.4 △	2.2 △	28.5 ▽▽△	41.4 △	26.8 △	2.5 △	20.3 ▽▽△	29.9 △	44.4 △	4.7 △
楽しみ型	482	18.0 ▽▽△	41.3 △	29.9 △	10.8 △	17.0 ▽▽△	46.3 △	25.5 △	11.2 △	10.8 ▽▽△	39.0 △	40.5 △	9.8 △	5.0 ▽▽△	18.3 △	68.5 △	8.3 △
義務型	279	10.0 △	29.0 △	43.0 △	16.5 △	7.9 △	34.4 △	38.4 △	17.9 △	5.0 △	29.0 △	46.2 △	18.3 △	2.9 △	15.4 △	67.0 △	13.3 △
校務型	63	9.5 △	9.5 △	36.5 △	44.4 △	4.8 △	14.3 △	36.5 △	44.4 △	1.6 △	12.7 △	33.3 △	52.4 △	3.2 △	6.3 △	60.3 △	30.2 △
計	1189	23.1	35.8	28.4	12.0	22.0	40.2	25.4	11.8	14.4	36.0	37.3	11.8	9.1	20.5	60.3	9.5

項目 カテゴリー N タイプ		⑤ 部員の父兄				⑥ 地域の人びと				⑦ スポーツ団体関係者				
		十分認めている	少しは認めている	どちらともいえない	「わかっていない」「あまり」「全く」	「認めていない」「あまり」「全く」	十分認めている	少しは認めている	どちらともいえない	「わかっていない」「あまり」「全く」	「認めていない」「あまり」「全く」	十分認めている	少しは認めている	どちらともいえない
生きがい型	365	38.6	39.5	18.1	3.0	18.9	27.4	47.1	5.8	26.8	33.4	34.0	4.4	
楽しみ型	482	13.1	33.6	46.5	6.8	5.2	15.1	71.8	7.9	6.6	20.5	65.6	7.3	
義務型	279	7.5	23.7	54.8	12.5	4.3	9.3	70.3	14.7	3.9	13.6	63.1	17.9	
校務型	63	6.3	9.5	50.8	33.3	3.2	4.8	60.3	31.7	4.8	6.3	55.6	30.2	
計	1189	19.3	31.8	39.9	8.4	9.1	17.0	63.2	10.1	12.1	22.1	54.8	10.1	

4. 顧問教師としての能力・資質

最近、スポーツ技術（競技）水準の高度化や顧問教師の過重負担軽減のため顧問を複数制にする学校や運動部が増加する傾向にある。そのため、ときには教師個々人の能力・資質や希望を十分考慮しないまま顧問運動部が決定されることが少なくないが、このことは顧問教師の部活動へのかかわり方とも深く関係しているように思われる。

顧問教師を決定する際の重要な条件の一つは、運動部の指導者としての能力・資質の有無であるが、なかでも特に、教師のスポーツ愛好やスポーツキャリアは重要な要素の一つであろう。スポーツ好きで過去のスポーツ経験も豊富な教師はともかくとして、スポーツがあまり好きでなくスポーツ経験の少ない教師にとっては、たとえ部活動の教育的価値を十分認識していたとしても、部活動指導は精神的にも肉体的にも苦痛で負担の大きい仕事になるのではないだろうか。

表12～16にみるように、指導意識は、スポーツ愛好、スポーツキャリア、指導能力の自信と有意の関連を持っている。顧問運動部のスポーツが、「とても好き」な教師は、義務型、校務型ではいずれも約25%以下であるのに対し、生きがい型教師では80%以上である。また、スポーツキャリアを学校時代の運動部加入経験や対外試合（大会）の参加及びその競技レベルからみる限り、運動部に加入し競技レベルの高い対外試合に参加した顧問教師は生きがい型＞楽しみ型＞義務型＞校務型の順になっている。さらに、部活動の指導能力についてみても、指導能力に自信を持っている顧問教師は生きがい型＞楽しみ型＞義務型＞校務型の順になっている。運動部の指導には技術指導が不可欠であるが、体育教師も含めて運動技術の修得にはスポーツキャリアが重要な役割を果たしている。したがって、顧問運動部のスポーツがあまり好きでなく、運動部加入経験の少ない校務型教師は指導能力に

も自信がもてず、あまり気がすまないが校務なので仕方なく指導している、というのが実情であろう。

表12 スポーツの愛好 表13 顧問運動部の愛好 表14 学校運動部の加入経験 表15 対外試合の競技レベル 表16 指導能力の自信

カテゴリー	タイプ	N	とても好き	好き	「好きでもない」「好きでもない」「好きでもない」	嫌い	嫌い	嫌い	嫌い	国際・全国大会	地区・ブロック大会	県大会・その他	大会参加経験なし注)	かなり自信がある	まあ自信がある方	どちらともいえない	あまり自信がない	まったく自信がない
生きがい型	365	82.5	16.2	1.4	81.4	17.0	1.6	94.2	5.8	40.5	22.5	27.1	9.9	20.3	46.6	21.9	7.9	2.7
楽しみ型	482	53.3	41.9	4.6	47.9	44.4	7.3	84.6	14.7	22.9	24.7	29.1	23.3	5.4	35.9	34.2	19.5	5.0
義務型	279	25.1	58.8	16.1	15.8	55.6	28.3	74.2	25.8	14.3	17.2	29.0	39.0	3.2	15.8	31.2	35.5	14.0
校務型	63	17.5	36.5	46.0	3.2	36.5	60.3	46.0	54.0	4.8	7.9	19.0	68.3	—	3.2	6.3	33.3	57.1
計	1189	53.7	37.7	8.5	48.3	38.2	13.3	83.1	16.7	25.2	21.4	28.0	25.3	9.2	32.7	28.3	20.4	9.2

注)「運動部加入経験なし」も含む

5. 部活動の教育的効果に対する価値態度

顧問教師の指導意識や指導行動を規定する要因の一つとして、部活動のもつ教育的効果に対する価値態度が考えられる。つまり、部活動指導に意欲を燃やし、そこに生きがいや楽しみを感じている教師ほど、部活動の教育的効果を高く評価しているのではないかと思われる。

表3にみるように、指導意識と価値態度とは有意の関連がみられるが、特に表17-①～⑤にみるように「教師と生徒の人間関係の向上」「民主的態度の育成」「愛校心・連帯感の向上」「集団生活の学習」「非行化防止」などに部活動が役立っていると好意的態度を示す教師は、生きがい型>楽しみ型>義務型>校務型の順になっている。部活動のもつ教育的効果に対する価値態度は全般に好意的であるが、特に生きがい型教師は、部活動がとかく希薄になりがちな教師と生徒の人間関係を高め両者の心のふれあいを直ちに経験できる、また、責任感、協力、愛校心、連帯感、秩序ある態度などを育成し、生徒の自主性や社会性の発達を促進するとともに、生徒の非行化防止・健全育成にも積極的な役割を果たしている、と部活動の教育的効果を高く評価しているとみてよい。部員の先頭に立ち、率先して指導に取り組む顧問教師のなかには、勝敗を度外視して部員（生徒）と一緒に活動し、汗を流して苦楽を共にすることに無上の歓びを感じる教師も少なくない。このような教師にとって部活動は、教科指導では味合うことの少ない生徒（部員）との心のふれあいを身をもって体験できる場として機能しているように思われる。

表17 部活動の教育的効果に対する価値態度

項目 反応 タイプ	N	①教師と生徒の 人間関係の向上			②民主的態度の 育成			③愛校心・連帯 感の向上			④集団生活の 学習			⑤ 非行化防止		
		積極的 肯定	消極的 肯定	中間 「否定」	積極的 肯定	消極的 肯定	中間 「否定」	積極的 肯定	消極的 肯定	中間 「否定」	積極的 肯定	消極的 肯定	中間 「否定」	積極的 肯定	消極的 肯定	中間 「否定」
生きがい型	365	89.3	9.3	0.8	84.7	13.2	1.6	74.0	17.8	7.7	85.2	12.6	1.6	62.7	30.1	6.6
楽しみ型	482	66.0	30.3	3.7	57.3	31.1	11.6	42.7	36.3	21.0	56.2	31.5	12.2	41.7	39.8	18.5
義務型	279	49.5	46.2	4.3	49.1	35.8	14.3	35.5	38.4	26.2	47.0	39.1	13.3	34.1	38.4	27.6
校務型	63	38.1	39.7	20.6	27.0	38.1	34.9	20.6	38.1	41.3	30.2	33.3	36.5	19.0	41.3	39.7
計	1189	67.8	28.1	3.9	62.2	27.1	10.4	49.5	31.2	19.2	61.6	27.6	10.5	45.2	36.6	18.1

6. 部活動指導に対する態度

昭和53年に改訂・公示された高等学校学習指導要領（昭和57年施行。以下「改訂学習指導要領」という。）では、部活動は「……特別教育活動との関連を十分考慮して文化部や運動部などの活動が活発に実施されるようにするものとする。」（傍点引用者）となっている。部活動は教育活動の一つであるが、あくまで教育課程外の活動として位置づけられているとみてよい。

教師の仕事の内容は多種多様であるが、原則的には教科や特別活動（ホームルーム、生徒会活動、クラブ活動、学校行事）の指導が中心となって展開されることが望ましい。したがって、負担の大きい部活動指導は教師本来の仕事からみれば周辺の教育的活動であり、その指導・監督にどの程度の義務や責任が伴うか必ずしも明確ではない。しかし、多くの運動部が放課後だけでなく、始業前（早朝）、休日、休暇中にも部活動を展開している実態を看過することは許されず、指導者、特に顧問教師はなんらかの形でその指導に携わっているとみてよい。顧問教師の複数制化の増加は、ある面ではこのような実情に対処するための一つの方策であろう。

ところで、顧問教師の部活動へのかかわり方は多様であるが、それはまた、部活動に対するさまざまな態度・意識とも強く関連しているように思われる。

表18-①～⑦は指導意識と部活動指導に対する態度・意識との関連を、いくつかの部活動指導に関する意見に対する反応からみたものであるが、両者の間には有意の関連がみられる。たとえば、生きがい型教師にとっては、部活動指導は教師の生活にハリと生きがいを与えてくれる場（機会）であるが、それは部活動指導が教師自身の趣味活動の一つになっているとともに、部活動が教師としての力量を発揮できる自己実現の場の一つとして、また、強いチーム・選手を育成したいという教師の夢を実現するための場としても機能しているからと思われる。そして、このような部活動（指導）観と、部活動指導は教師の当然

の仕事（義務）である、という職業観とが、部活動指導に多くの労力を費やし、家庭生活や家族との団らんの機会あるいは自由時間を犠牲にしながらも、部活動指導が余り負担の大きい仕事になっていない、と意識している理由の一つになっているものと思われる。これに対して、校務型教師の約4分の1のものにとって、部活動指導はハリと生きがいを与えてくれる場になっていない。それは、校務型教師のスポーツ愛好度が低く、スポーツキャリアも乏しいために、部活動指導が趣味活動の一つになりにくいこと、また、部活動指導を教師の当然の仕事（義務）と考えないで奉仕活動と考えていること、さらに、教師としての力量発揮の場として部活動が機能していない上に、強い選手・チーム育成への夢がないこと、などの要因が強く関与しているものと思われる。そしてこのことが、校務型教師の指導行動が、質的にも量的にも他タイプの教師と比較して劣っているにもかかわらず、約近頃の教師が、部活動指導をかなり負担の大きい仕事と意識していることの主な理由にもなっているものと思われる。

表18 部活動指導に対する態度・意識

項目		① ハリと生きがい					② 当然の義務					③ 趣味の1つ					④ 力量発揮の場				
タイプ	N	意見					意見					意見					意見				
		積極的肯定	消極的肯定	中 間	消極的否定	積極的否定	積極的肯定	消極的肯定	中 間	消極的否定	積極的否定	積極的肯定	消極的肯定	中 間	消極的否定	積極的否定	積極的肯定	消極的肯定	中 間	消極的否定	積極的否定
生きがい型	365	63.8	30.7	4.3	—	—	52.6	24.7	14.2	2.7	3.8	44.7	34.8	9.9	3.3	6.0	34.5	30.4	20.5	6.0	6.8
楽しみ型	482	8.5	52.9	26.8	7.7	3.7	21.2	43.2	20.5	8.5	6.0	13.5	53.1	20.1	7.7	5.6	5.4	22.6	37.3	18.0	16.6
義務型	279	2.2	22.9	32.6	26.9	14.3	19.4	41.9	24.4	8.2	5.4	2.2	16.1	29.0	21.5	30.5	2.9	11.1	34.1	23.3	28.0
校務型	63	—	3.2	20.6	23.8	52.4	7.9	22.2	23.8	22.2	23.8	—	9.5	7.9	14.3	68.3	—	1.6	12.7	15.9	69.8
計	1189	23.5	36.4	20.9	10.7	7.6	29.7	36.1	19.7	7.4	6.1	19.7	36.5	18.4	9.9	14.9	13.5	21.2	30.1	15.5	19.1

項目		⑤ 強い選手・チームの育成					⑥ 負担の大きい仕事					⑦ 奉仕活動				
タイプ	N	意見					意見					意見				
		積極的肯定	消極的肯定	中 間	消極的否定	積極的否定	積極的肯定	消極的肯定	中 間	消極的否定	積極的否定	積極的肯定	消極的肯定	中 間	消極的否定	積極的否定
生きがい型	365	30.1	32.9	19.5	7.4	8.8	4.1	10.7	19.7	25.8	38.4	25.5	23.8	19.2	11.8	18.1
楽しみ型	482	3.3	25.1	29.7	18.9	23.0	2.9	15.1	30.1	34.6	17.2	11.8	34.6	28.2	16.2	8.9
義務型	279	2.2	8.2	25.8	24.7	38.4	7.9	34.8	31.5	17.2	7.9	17.2	41.9	25.4	7.2	7.5
校務型	63	—	—	12.7	19.0	68.3	19.0	44.4	15.9	12.7	7.9	23.8	38.1	14.3	6.3	17.5
計	1189	11.1	22.2	24.7	16.7	24.6	5.3	19.9	26.5	26.7	21.0	17.9	33.2	24.1	12.1	11.9

また、表19、20は、部活動の振興方法及び部活動と人間形成との関係と指導意識との関連をみたものである。

改訂学習指導要領で、部活動が教育活動の一環として特別活動との関連において、その振興をはかるように明示されているとはいえ、教育課程外の部活動の位置づけは依然として不明確であるし、部活動を学校教育から社会教育に移行して振興した方がよいとする論議も今日なお残存している。また、勝利・競技志向的な色彩をより強めている現在の部活動は、もはや教育の枠を大きく逸脱している、という批判も少なくない。さらに、このようなチャンピオンスポーツ化した高校運動部が、教育の目標である人間形成に機能するためには部活動はどうあるべきか、といった部活動のあり方に対する態度・意識も指導行動ばかりでなく指導意識をも規定する要因の一つと考えられる。

そこでまず、部活動の振興についてみると、部活動を社会教育に移行するのではなく学校教育の場で振興した方がよい、とする教師は、生きがい型>楽しみ型>義務型>校務型の順になっている。特に、生きがい型教師の約93%が、学校教育の場で振興した方がよい、と考えている背景には、前述のように、部活動の持つ教育的効果を高く評価していることや部活動（指導）が教師自身の趣味活動として、また、能力の自己実現や強い選手・チーム育成の場として機能していること、などの要因と関連があるものと思われる。

表19 部活動振興の方法
(学校教育か社会教育か)

表20 人間形成と部活動
(楽しみー勝利志向)

タイプ	N	意見				反応			
		A. 社会教育で振興		B. 学校教育で振興		A. 勝利志向		B. 楽しみ志向	
		積 極 的 持	消 極 的 持	消 極 的 持	積 極 的 持	積 極 的 持	消 極 的 持	消 極 的 持	積 極 的 持
生きがい型	365	3.8 ^	3.6 ^	31.5 V	61.1 V	39.2 V	48.5 V	9.6 ^	1.6 ^
楽しみ型	482	4.4 ^	12.0 ^	47.5 	35.7 V	18.0 	51.2 	25.3 	4.4
義務型	279	10.4 ^	18.3 ^	49.1 	21.9 V	15.8 	51.6 V	26.9 ^	5.0 ^
校務型	63	20.6 	25.4 	38.1 	14.3 	7.9 	33.3 	39.7 	19.0
計	1189	6.5	11.6	42.5	39.1	23.5	49.5	21.6	4.5

次に、人間形成と部活動の関係についてみてみよう。

前述したように、指導意識の違いによって差異があるものの、一般に顧問教師の多くは部活動の教育的効果を高く評価しているが、生徒が部活動に参加していれば自然に教育的効果が達成されるわけではなく、そこには適切な指導が必要であることはいうまでもない。ここでは、人間形成の立場から部活動の目標を、〈勝利志向型〉（勝つことを目標とした厳しい練習の中でこそ人間が形成される）と〈楽しみ志向型〉（勝つことよりも運動を楽しむことによって望ましい人間が形成される）とを対置し、二者択一的に回答を求めた。表にみるように、勝利志向型を支持する教師は、生きがい型＞楽しみ型＝義務型＞校務型の順になっている。生きがい型教師の90％近くが、勝利志向型部活動を支持している背景には、勝利至上・鍛錬主義的猛練習を主軸とする人間形成の場として学校運動部を位置づけてきたわが国の伝統的運動部観が、今日もなお根強く残存していることの反映であろうし、それがまた生きがい型教師の部活動指導に対する献身的な取り組みを支えるバックボーンの一つにもなっているものと思われる。

7. 指導行動

顧問教師の部活動指導の方法や内容は量的にも質的にも多様である。たとえば、技術指導はしない（出来ない）が終始部活動に立合っている教師、補佐的な指導しかできないが生徒（部員）の私生活や学業成績などの指導助言をする教師、休日・休暇中の大会（対外試合）にのみ付き添って指導する教師、など部活動が活発化し競技力が向上するほど顧問教師の指導（仕事）内容が分化し、教師の特性に対応した役割を分担する傾向がみられる。そして、こうした部活動へのかかわり方は、教師の指導能力や校内での位置・役割などのほかに、指導意識とも深く関係しているように思われる。

表21～25は、指導意識と部活動指導行動との関係をみたものである。生きがい型教師の約80％は、ほとんど毎日率先して技術指導を行っている。指導時間も春夏期の平日で約44％の教師が3時間以上、土曜日で約40％の教師が4時間以上となっている。これに対して、校務型教師の約34％は技術指導をしない上に、半数以上の教師が部活動指導をほとんど行っていない。また、表26、27にみるように、技術指導タイプや部活動の活動計画立案者という点からみると、生きがい型教師には技術指導を自分一人で行っている〈専任型〉や他にも技術を指導する人がいるが主に自分を中心となって技術指導を行っている〈主導型〉が多い。しかも部活動の活動計画は教師主導型である。これに対して、校務型教師は、自分では技術指導をしないで他の教師（指導者）に依存している〈他人依存型〉や教師自身も含めて技術指導者がいなくて部員に任せている〈部員一任型〉が多い。したがって、部活

表21 技術的指導 表22 放課後の部活動指導 表23 部活動指導時間(春夏期平日)

カテゴリー		率 先 し て い つ も	と き ど き	し な い	い つ も 指 導	週 3 ～ 4 日 指 導	週 1 ～ 2 日 指 導	ほ と ん ど 指 導	2 時 間 未 満	2 時 間 以 上	3 時 間 以 上	4 時 間 以 上
タイプ	N											
生きがい型	365	81.1 ▽	14.5 ▽	4.4 △	79.2 ▽	13.2 △	4.7 △	2.5 △	13.7 △	38.9 △	33.7 ▽	10.7 ▽
楽 し み 型	482	48.1 ▽	39.2 ▽	12.4 △	52.5 ▽	22.8 △	16.2 △	7.1 △	21.4 △	44.8 △	21.6 ▽	4.6 △
義 務 型	279	22.6 ▽	36.6 ▽	40.9 △	30.1 ▽	19.0 △	28.0 △	20.4 △	25.4 △	34.1 △	14.0 ▽	3.9 △
校 務 型	63	3.2 ▽	20.6 ▽	76.2 △	6.3 ▽	11.1 △	27.0 △	55.6 △	20.6 △	12.7 △	6.3 △	3.2 △
計	1189	49.9	30.0	20.0	53.0	18.3	16.0	11.4	19.9	38.8	22.7	6.2

表24 部活動指導時間(春夏期土曜) 表25 休日の部活動の指導・引率日数

カテゴリー		2 時 間 未 満	2 時 間 以 上	3 時 間 以 上	4 時 間 以 上	5 時 間 以 上	9 日	10 日 ～ 19 日	20 日 ～ 29 日	30 日 以 上
タイプ	N									
生きがい型	365	4.7 △	18.9 △	33.2 △	23.0 ▽	17.3 ▽	11.2 △	18.1 △	20.5 △	49.6 ▽
楽 し み 型	482	10.0 △	27.2 △	32.2 ▽	14.9 ▽	8.1 △	25.1 △	32.0 △	18.9 △	23.4 ▽
義 務 型	279	12.5 △	25.1 ▽	22.6 ▽	9.3 △	7.9 △	39.1 △	29.4 △	15.4 △	15.4 ▽
校 務 型	63	6.3 △	15.9 △	11.1 △	4.8 △	4.8 △	58.7 △	25.4 △	9.5 △	6.3 △
計	1189	8.7	23.5	29.1	15.6	10.7	25.9	26.7	18.1	28.7

運動の活動計画は部員に一任するか、他の指導者に任せ、計画立案に参画しない教師が多い。
 このように、校務型教師の多くは部活動指導をあまり行っていないし、学校で費やすエネ
 ルギーの少ししか部活動に投入していないのに、半数以上の教師が部活動指導に負担を感
 じている。指導行動の程度からみて、この負担感は肉体的物理的な面よりは精神的プレッ
 シャーによるものと解するのが妥当であろう。

表26顧問タイプ(技術指導からみた)

表27 部活動の計画立案者

カテゴリー		専 任 型	主 導 型	協 力 型	補 佐 型	他 人 依 存 型	部 員 一 任 型	自 分	自 問 分 教 師 以 外 の 顧 問	顧 問 教 師 全 員	部 員	顧 問 教 師 と 部 員	そ の 他
タイプ	N												
生きがい型	365	46.3 △	26.3 ▽	9.9 △	13.2 △	4.4 △	—	60.8 ▽	9.6 ▽	6.6 △	3.0 △	17.8 △	1.6 △
楽 し み 型	482	41.1 ▽	15.1 ▽	11.8 △	18.7 △	10.8 △	2.5 △	32.2 △	13.5 △	6.2 △	9.1 △	36.3 △	0.8 △
義 務 型	279	26.2 ▽	10.0 ▽	5.0 △	17.2 △	31.9 △	9.7 △	19.0 △	24.4 △	5.4 △	15.8 △	33.0 △	2.2 △
校 務 型	63	4.8 △	3.2 △	3.2 △	11.1 △	55.6 △	22.2 △	3.2 △	30.2 △	6.3 △	34.9 △	20.6 △	3.2 △
計	1189	37.3	16.7	9.2	16.2	16.1	4.5	36.3	15.7	6.1	10.2	29.0	1.5

8. 生活行動

本来、教師の学校での生活は教科指導や特別活動指導を中心に展開されることが望ましいが、現実にはこれらの仕事のほかに、校務関係の仕事や生徒指導やその他の雑務に忙殺されているのが実情である。その上更に、部活動指導に2・3時間費やすとなると、部活動指導は学校生活ばかりでなく家庭生活にもかなりの影響を及ぼしているように思われる。

ここでは、指導意識との関係から部活動指導の生活（行動）への影響を具体的に把握してみよう。

表28～33は、指導意識と教師の退勤時刻、放課後の仕事、エネルギーの配分、家庭生活への影響、自己研修などとの関連をみたものである。学校に遅くまで居残っている教師、部活動指導が放課後の主な仕事で、それに多くのエネルギーを費やしている教師、家庭生活が部活動指導のために犠牲になっている教師、部活動指導能力向上のために体育・スポーツ関係の書物や雑誌を読んだり、技術修得のためにスポーツクラブに入ったりして自己研修をしている教師の割合は、おおむね、生きがい型>楽しみ型>義務型>校務型の順になっている。たとえば、生きがい型教師の場合、8割の教師が放課後の仕事の第1位として部活動指導を行い、それに学校で費やすエネルギーの3割以上を投入しているが、それを教科指導との配分比率からみても、部活動指導≧教科指導の教師が約56%と半数を超えている。また、%の教師が春夏期平日の場合、午後7時以降に退勤しているから、家庭生活が犠牲になっている教師も80%近い。その上多くの教師が部活動指導能力向上のための自己研修を行っている。生きがい型教師の部活動指導に注ぐ心身の労力・意欲はきわめて大きいとみてよい。これに対して、校務型教師の場合、ほとんどの教師が部活動指導よりも教科指導により多くのエネルギーを配分している。したがって、部活動指導のための自己研修を行ってい

る教師も少ないし、放課後の仕事として部活動指導を第1にあげる教師も約13%にすぎず、残りの大部分の教師は、教材の研究・準備や校務関係が放課後の主な仕事となっている。また、退勤時刻も

表28 退勤時刻
(春夏期)－午後－

表29 放課後の仕事の
内容(1位)

カテゴリー		退勤時刻					放課後の仕事の 内容(1位)			
		559	600	630	700	730	教科指導の準備・研究	校務関係	部活動指導	その他
タイプ	N									
生きがい型	365	4.1	10.7	17.8	23.6	44.1	4.4	12.9	80.0	2.2
		△	△	△	△	△	△	△	△	△
楽しみ型	482	9.3	20.7	19.5	28.8	21.6	11.8	25.9	53.7	8.5
		△	△	△	△	△	△	△	△	△
義務型	279	20.8	21.5	20.4	18.3	18.3	27.6	35.1	30.8	6.5
		△	△	△	△	△	△	△	△	△
校務型	63	38.1	22.2	27.0	7.9	3.2	46.0	34.9	12.7	6.3
計	1189	11.9	17.8	19.6	23.6	26.7	15.1	24.6	54.2	6.0

		表30 エネルギー配分 (部活)				表31 エネルギー配分 (部活か教科か)				表32 部活指導による 家庭生活への影響				表33 部活指導のた めの自己研修			
カテゴリー	タイプ	N	2	3	4	5	部活動 ▽授業	部活動 ∥授業	部活動 △授業	かなり 犠牲にな っている	ある程度 犠牲にな っている	どちらともい えない	「犠牲になっ ていない あまり」 「ほとんど」	いつもし ている	ときど きし ている	心がけ てい る かな い	してい ない
			割 以 下	割	割	割 以 上											
生きがい型		365	17.5 △	30.7 ∥	30.7 ▽	21.1 ▽	34.5 ▽▽	21.1 ▽	43.0 △	33.4 ▽▽	44.9 ∥	7.9 △	12.9 △	45.8 ▽▽	38.6 △	12.3 △	2.7 △
楽 し み 型		482	45.4 △	32.4 ▽	16.6 ▽	5.6 ∥	14.5 ▽▽	15.8 ∥	69.5 △	14.9 ∥	45.0 ▽	12.7 ∥	26.8 ∥	19.1 ▽	44.6 ▽	27.0 △	8.5 △
義 務 型		279	67.7 △	19.0 ▽	8.2 ▽	5.0 ∥	9.0 ▽	11.8 ▽	78.9 △	19.0 ▽▽	37.3 ∥	12.5 ∥	30.8 △	7.2 ▽	23.7 ▽	42.7 △	26.5 △
校 務 型		63	93.7 △	3.2 ▽	3.2 ▽	— —	— —	1.6 ▽	98.4 △	7.9 ▽	30.2 ∥	9.5 ∥	52.4 △	— —	14.3 ▽	25.4 △	60.3 △
計		1189	44.7	27.2	18.3	9.9	18.6	15.7	65.1	21.2	42.4	11.0	24.8	23.5	36.2	26.1	13.7

早く約60%の教師が午後6時30分前に職場を出ている。さらに、部活動指導による家庭生活への影響を訴える教師も約38%程度である。校務型教師の場合、部活動指導によって学校や家庭での生活が大きな影響を受けているとは考え難い。

9. 教師生活のやりがいと満足度

このように、指導意識は顧問教師の部活動指導へのかかわり方と関連するばかりでなく、教師の学校や家庭での生活にも構造的変化を及ぼしているが、それは更に、教師生活のやりがいや満足度とも関連を持っている。

表34～35にみるように、教師生活のやりがいを教科指導よりも部活動指導の方に、また、教師生活に非常に、あるいは、どちらかといえば満足している教師は、生きがい型>楽しみ型>義務型≧校務型の順になっている。特に、前述の部活動指導と教科指導へのエネルギーの配分比率の割合よりも教師生活のやりがいを、教科指導と同等かそれ以上に部活動指導の方に感じている

		表34 教師生活のやりがい (部活と教科指導)				表35 教師生活満足度			
カテゴリー	タイプ	N	部活指導 の方に感じ ている	教科指導 の方に感じ ている	どちらにも感 じていない	非 常に 満 足	ど ち ら か と い え ば 満 足	ど ち ら か と い え ば 不 満 足	「非 常に 不 満 足 ど ち ら か と い え ば —」
生きがい型		365	40.5 ▽	50.7 △	7.1 ∥	0.8 ∥	28.8 ▽	52.1 ▽	9.0 △
楽 し み 型		482	20.3 ▽	38.6 △	39.4 △	1.5 ∥	12.0 ▽	54.4 ▽	19.7 △
義 務 型		279	7.9 ▽	21.1 △	68.1 △	2.9 ∥	9.3 ▽	46.6 △	25.4 △
校 務 型		63	— —	3.2 ▽	93.7 △	3.2 ∥	14.3 ▽	42.9 △	20.6 △
計		1189	22.5	36.3	39.1	1.7	16.7	51.2	17.8

教師が多いことが注目される。たとえば、生きがい型では、エネルギー配分が部活動指導≧教科指導の教師が約56%であるのに対し、教師生活のやりがいが部活動指導≧教科指導の教師は90%を超えている。また、教師生活に非常に、または、どちらかといえば満足している教師が義務型・校務型では56・7%であるのに対し、生きがい型約81%、楽しみ型約66%となっている。部活動指導は生きがい型や楽しみ型の教師にとって、教師生活のや

りがいや満足度を構成する要素の一つとしてかなり大きな位置・役割を果たしているように思われる。

お わ り に

運動部顧問教師の部活動へのかかわり方は多様であり、それを個別的に具体的かつ的確に素描することはかなり難しい問題である。本稿では、部活動指導意識から顧問教師を4タイプに分類し、指導意識と関連する項目（要因）の分析を通して、顧問教師の生活や意識の特性を多角的・個別的かつ羅列的に概観した。この分析（研究）方法がきわめて不十分であることはいうまでもないが、顧問教師の複雑かつ多様な生活や意識を類型化するための手がかりを得たという点でそれなりの成果があったのではないかと考える。

以下、タイプ別にみた顧問教師の生活と意識の特性を要約しておきたい。

生きがい型：年齢、性、結婚などのデモグラフィックな要因に関係なく、顧問教師の約29%、担当教科別では体育教師の約45%、他教科教師の約20%がこのタイプに属する。

スポーツ愛好度が高く、スポーツキャリアも豊富である。部活動指導能力向上のために熱心に自己研修を行い、指導能力に強い自信を持っている。家庭生活、家族との団らんの機会、自由時間を犠牲にしてまでも部活動指導に情熱を注ぎ、部員の先頭に立ち率先して技術指導を行い、連日夜遅くまで、また、休日や休暇中にもほとんど休むことなく部活動指導を行っている。部活動指導には学校で費やすエネルギーの平均3・4割を投入しているが、教科指導（授業）との配分比率からみると半数以上が部活動指導≧教科指導型である。そして、教師としてのやりがいを教科指導と同等かそれ以上に部活動指導に感じている。

このような生きがい型教師の生活や意識は、顧問教師の部活動の教育的効果に対する高い評価、勝利を目指した厳しい練習のプロセスにこそ人間形成の鍵があるとする強い信念、部活動指導は教師の当然の仕事（義務）であるという教職観、教師の部活動指導に対する他者の高い評価の自己認知、などの価値態度体系の形成に加えて、部活動指導それ自体が教師の趣味の一つとして、また、教師としての力量を発揮できる自己実現の場として、さらに強い選手・チーム育成という夢の実現の場として機能していること、などの要因によって規定されているものと思われる。

楽しみ型：顧問教師のなかでもっとも多い約39%、担当教科別では体育教師の約37%、他教科教師の約40%がこのタイプに属する。

生きがい型教師ほどではないが、スポーツ愛好度も高くスポーツキャリアも豊かであ

る。技術指導という点では、教師が率先して行う専任・主導型群と他の顧問との協力・補佐・依存型群の2派に分けられるが、前者が後者を若干上回っている。半数以上の教師がいつも部活動指導を行い、放課後の第1の仕事として部活動指導を行っている。指導時間は春夏期の平日で2・3時間、土曜日で3・4時間位が多い。学校で費やすエネルギーの3割前後を部活動指導に配分しているが、エネルギー配分が部活動指導>教科指導型は15%程度である。約3/4の教師が、部活動指導を教師自身の趣味の一つと考えているとともに、それを教師の当然の仕事（義務）とも考えている。しかし、生きがい型教師と違い、強いチーム・選手育成の夢を持つ教師や部活動指導で教師としての力量を発揮しようとする教師は30%以下で、それを否定する教師の方が多い。部活動指導は教師にハリと生きがいをそれ程強く与えてくれるわけではないが、60%近くの教師が教師としてのやりがいを教科指導と同等かそれ以上に部活動指導に感じている。

このタイプには、部活動指導に注ぐ情熱や労力は決して少なくないが、勝利・競技志向型で顧問主導型の教師群と楽しみ志向型で協力・補佐型の教師群とが混在しているように思われる。

義務型：顧問教師の約22%、担当教科別では体育教師の約12%、他教科教師の約28%がこのタイプに属する。

顧問運動部のスポーツも含めてスポーツがとても好きな教師は25%以下である。また、3/4近くの教師が学校運動部加入経験者である反面、40%近くの教師が対外試合参加未経験者であるなど、スポーツ愛好度やスポーツキャリアはそれ程高くない。いつも率先して技術指導を行う教師は1/4程度で、依存型や補佐型が多い。放課後の主な仕事は校務関係がもっとも多く、部活動指導を第1とするものは1/4以下である。生きがい型や楽しみ型と違い、3/4以上の教師が教師としてのやりがいを教科指導に求めているので、部活動指導に費やすエネルギーは少ない。スポーツ愛好度やスポーツキャリアが低く乏しいので、部活動指導が教師自身の趣味の一つになっているものは少ない。その上部活動指導能力の自信が弱いので、部活動指導で教師としての力量を発揮しようとする欲求も弱い。また、強いチーム・選手育成という夢もほとんど持っていない。したがって、部活動指導によって生活にハリと生きがいを感じる教師はきわめて少数である。部活動指導の奉仕性を肯定している教師も多いが、校務型教師と異なり、義務感がこのタイプの教師の運動部顧問教師としての生活や意識を規定しているように思われる。

校務型：きわめて少数であるが、顧問教師の約5%、担当教科別では体育教師の約1%、他教科教師の約7%がこのタイプに属する。

スポーツ愛好度は低く、スポーツキャリアも乏しい。大半の教師が学校運動部加入経

験や対外試合参加経験を持っていない。部活動指導能力に自信がないため、技術指導や部活動の活動計画は他人任せで、部活動指導もほとんど行っていない。ほとんどの教師が教師としてのやりがいや教科指導の方に感じているので、部活動指導に費やすエネルギーはきわめて少ないか無に等しい。放課後の仕事は校務関係や教科指導関係が中心である。退勤時刻は他のどのタイプの教師よりも早い。強い選手・チームの育成とか教師としての力量を部活動指導で発揮しようとする意欲はほとんどみられない。部活動指導を教師の当然の仕事（義務）と考えるより奉仕活動であるという意識が強い。部活動指導はほとんどしないし、家庭生活や私生活への影響も少ないのに、このタイプの大半の教師は部活動指導に大きな負担を感じている。部活動指導そのものよりも運動部の顧問教師であること自体が苦痛でプレッシャーになっているのかも知れない。

運動部顧問教師の生活と意識の特性を部活動指導意識から分類した4つの顧問教師タイプを軸にして類型化を試み、その特徴を素描したが、運動部顧問教師の生活体系や部活動指導行動を規定する要因の全体構造を解明するためには、更に詳細な分析が必要である。これについては稿を改めて検討する予定である。

付 記

- ①本稿は、昭和55年度文部省科学研究（一般）「中・高等学校の運動部顧問教師の生活と意識に関する実証的研究」の成果の一部であるが、研究の一部はすでに「高等学校の運動部顧問教師の生活と意識」（体育・スポーツ社会学会編『体育・スポーツ社会学研究2』P P 95～131、道和書院、1983）として発表した。
- ②本稿は、日本体育学会第35回大会（1984年）で「運動部顧問教師の部活動指導意識に関する研究」という演題で発表したものを改稿したものである。共同研究者の藤田匡肖（三重大）坪田暢允（名古屋学院大）、川西正志（中京大）、山本英人（日本福祉大）、鈴木文明（名古屋大）の諸先生に心からの感謝を申し上げる。
- ③また、本調査の実施にあたり、各都道府県高体連をはじめ調査対象地の教育委員会や調査にご協力いただいた先生方に心よりお礼を申し上げる。

主な参考文献

- 1.「高等学校学習指導要領」中等教育資料、第386号、1978
- 2.相川高雄「クラブ活動と部活動の指導入門」明治図書 1980
- 3.青井和夫他編「生活構造の理論」有斐閣 1971
- 4.飯田芳郎他編「子どもが生きるクラブ活動・部活動」『特別活動の新展開4』明治図書 1979
- 5.全国教育研究所連盟編「クラブ活動の教育的効果」東洋館出版社 1981
- 6.中村敏雄「クラブ活動入門」高校生文化研究会 1979
- 7.安田三郎他「社会調査ハンドブック」（第3版）有斐閣 1982